

2023 年度第 8 回 12 月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2023 年 12 月 6 日（水）
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数 9 名
返信総数 2 名
出席総数 6 名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子
	委員	佐子達仁
	委員	若井明香
	委員	鈴木正人

4. 議 題

（1）「アナログ専科」について

放送日 毎週土曜日 20：00～21：00

11/11（土）放送分 谷村新司追悼回

（2）その他

5. 議事内容

（1）毎週土曜日 20：00 から放送

「アナログ専科」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

本番組は、弊社が所蔵する約 7 万枚余のアナログ・レコードから、毎回洋楽・邦楽問わず LP 盤・7 インチ盤を紹介しています。2016 年 4 月から放送を開始し、特別番組で放送休止の時もありますが、これまで 341 回（2023 年 11 月 25 日現在）放送してまいりました。30 分バージョンは、現在、北日本放送（KNB、富山県）、ラジオ沖縄（ROK、沖縄県）でネット中です。

i) 洋楽・邦楽の LP・シングル盤を紹介

本番組では、他局ではなかなか聴けないアーティストや曲を紹介しています。その中でも、現在なお未 CD 化の音源もあり、この番組でしか聴くことができないアナログ・レコードをご紹介します。

ii) LP 盤をほぼフルでかける

スポンサーがついていない番組ではありますが、それを逆手にとって、他局ではなかなかご紹介できないアルバムをほぼフルでかけています。パーソナリティーの話はサイドディッシュとして、メインをひき立たせるよう、番組にアクセントをもたせた話を心がけています。

iii) 弊社所蔵のみならず、21 世紀に発売されたアナログ盤も紹介

弊社所有の約 7 万枚余のアナログ盤とパーソナリティーが秘かに所蔵するアナログ盤から紹介しています。昨今、7 インチ盤のみリリースしているアーティストも増えてきましたので、パーソナリティー選曲の良質な曲をお届けできるよう心がけております。

iv) 毎回ご紹介したセットリストを番組ブログで紹介

番組放送後に、セットリストを番組ブログに掲載しています。番組を通じてアーティストやその曲を知るきっかけになれば、という思いがあります。radiko でも聴いていただきたいです。

各委員からは、

○谷村新司追悼ということで、私が思い出されるのは、彼の番組「セイ！ヤング」、高校受験時の印象的なエピソード、そして当時の思春期にセイヤングの天才秀才バカシリーズが刺激的な話題となり、友達との会話にも影響を与えた。また、当時の音楽が番組を通じて蘇り、非常に良い番組だったと評価しました。ただ、番組制作費は低コストで抑えられているようでコスパが良い、悪く言えば手抜き、と感じたが同時に長期間にわたり番組が続いているということは、評価があるのではないかと感じました。個人的には、東高校のエピソードについてもっと詳しく語って頂きたかったと思いました。

○今回、番組のターゲットが男性で、かなり年上の方々を対象にしていると感じた。土曜の夜に放送され、落ち着いた雰囲気の中で、特に男性が楽しめる興味深い番組だとの印象を持ちました。レコードのA面とB面に触れ、曲を通してDJやパーソナリティの声なしで聞ける点に新鮮さを感じた。デジタルとアナログの違いに触れつつ、デジタルなら次々に飛ばせるが、番組では音楽が途切れずに流れていることが新しい。また、ラジカセで聞いた際の音質もよく、FMでも聴きたいと思いました。番組ブログは、本編では触れられなかった一言や曲名、LP版の写真が紹介されており、音楽と会話が絶妙なメリハリを持っている良い番組だと感じた。

○本来であれば、楽しく音楽を紹介し、番組を通じてアーティストや曲を知ってもらいたいという思いで番組を提供されているのかと思います。今回は、追悼回とのことで、多くの時間を谷村さん・アリスの曲がかけられていましたが、番組初めに我々の青春時代！と話されていたので、もう少し曲の思い出やその当時を偲ぶ会話が展開されると思っていました。また、会話の中での笑い声は、「追悼」という先入観から残念な印象となっていました。

○通常は厳しい評価が多い自分だが、今回のラジオ番組については非常に良かった、リラックスしてゆったりと聞ける良い番組だと感じた。特に、番組のCDをステレオで聴くと素晴らしい音質に感動し、LPの音も素晴らしい、谷村新司やアリスなどへの投函する世代よりも若干下の世代であるが、地元ローカルならではの東高校の話に興味を持ち、全国ネットでも放送される中での独自性に感心した。ただリスナーに対して出演者の簡単な紹介があると良いと思った。今後の放送回での特集にも期待し是非続けてほしい。

○番組途中でコマーシャルが入らないことが良かった、アナログレコードの曲をじっくり聴ける良い番組だと感じました。特に今回の谷村新司さんの追悼番組は、私の世代にピッタリで、当時の時代を思い出す素晴らしい内容だったと述べました。ただし、栃木放送のリスナーが中高年の方が多いため、若い世代にはどう受け入れられるか疑問がある。その上で、番組自体は非常に良いので、機会があれば再び聴きたいと述べました。ただし、パーソナリティー2人の会話については、若干緊張感がなく、友達同士の会話のように感じられたことが残念だと感じた。

○アナログの音質が非常に良く、柔らかくて聴きやすいと感じた。一般的に追悼番組は紹介する人の人柄が出やすく難しいので、放送の仕方について検討すべきだと感じた。個人を追悼する際には、追悼の内容や人柄をよく調べ、業績も含めて紹介の方が良いと思いました。このラジオ番組はとてもよく、谷村新司をこんなに長く聞いたことがなかったが、初めて良い番組に出会えたと感じた。

○谷村新司追悼番組ということで期待をしていた。テレビは映像が強く印象に残るが、ラジオは自分で思い出す要素が多く異なる印象を持てる。特に、アリスの楽曲が自分の落ち込んだ時や失敗したときに励みとなり、ラジオでじっくりとその音楽を楽しむことができて良かったと感じた。番組進行を兼務しているベテランディレクターの話もとても良かった前に分かっていたら音楽についての話をもっとして欲しかった。また、ナレーション解説が短く、知ったかぶりが少なかったことがよく、栃木放送がアナログレコードを約 7 万～8 万枚保存していることに驚いた、今後もこのレコードを活用してほしいと思う。

○曲や音源など懐かしいという印象を受けた。そして、昨今とは違って当時の曲は落ち着いて聴けるなど改めて思いました。番組自体も 2016 年より 7 年間と長く続いており、老若男女問わず聴けていい番組であり、番組構成も曲を中心としたものとなっており、ナレーターの話も人柄紹介などでよいと感じました。今後、例えば、現在の音源と LP の音源の違いなども比較してみたりするもの「アナログ専科」といった番組では面白い企画ではないかと思いました。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2024 年 1 月 7 日）
- ② 当社のホームページに掲載（2024 年 1 月 9 日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2024 年 1 月 9 日～）

以上